

千葉大学記念講堂の価値を語る

対談者：栗生 明 千葉大学大学院工学研究科・教授

聞き手：鈴木信夫 めのはな同窓会広報担当常任理事



鈴木： 今日、栗生明（くりゅう・あきら）教授に亥鼻キャンパスへご足労頂き、千葉大学記念講堂（以下、記念講堂）の価値について、お話しをして貰うことにしました。記念講堂をめぐる様々な議論がありますが、デザイン工学が専門の建築家の立場から、めのはな同窓会員諸氏に、記念講堂の重要性をアピールして頂けると有り難いです。まず、先生ご自身の経歴の紹介をお願いします。

栗生： 今日、千葉大学・大学院工学研究科で、建築デザインを教えている栗生です。これからお話しする記念講堂を設計された榎文彦さんの事務所、（株）榎総合計画事務所に6年間在籍したことがあります。そのようなご縁で、今日のインタビューになったと思います。

千葉市優秀建築賞選定委員を10年間やっていますが、同委員会は昨年20年目を迎えました。この20年間をひと区切りに、優秀建築賞を受賞した建物134件をマップにまとめた「現代建築ガイドブック・千葉市」（以下、ガイドブック）を発刊しました。その際、単に受賞作品だけではなく、千葉市にある文化的価値の高い建物、千葉市民が誇れる建物も網羅しました。実は、ガイドブックの表紙を飾っているのが記念講堂です。東京オリンピックが開催された昭和39（1964）年、榎文彦さんが日本で2番目に設計した建物です。日本モダニズム建築の傑作のひとつと、私は考えています。建築的にもアーバンデザイン手法を用いています。開放的なオーディトリウムは、珍しいタイプですね。外部に対して開かれた空間は、引き戸を開放して創りだし、外部と一体になって使われているユニークな建物でもあります。

この建築は、亥鼻の森のお社（やしろ）「鎮守の森にたつやしろ」というイメージで設計されています。形態的には、梯形にした建物の屋根は銅板葺きで、それ以外はコンクリート打放しの清々しいデザインです。こういった点が記念講堂の見所であり、文化的にも価値のある建物だと思います。

また、この講堂は千葉市民にとっても重要な建物であり、築後50年を経てさらに活用するにはどうすれば良いか、大学側でも色々な調査をされているようですが、保存・再生して活用していくことが望ましいと思っています。

調査した上で、耐震補強をし、外部コンクリートの汚れや毀損を補修しながら、空調や音響などの設備、座席寸法も含めた総合的な見直しをする。大学での利用例としては、医学部の展示ギャラリー、或いは図書室のような機能を付加してはどうか。そして、大学のシンボルとして再活用するだけでなく、市民から積極的に利用されるような講堂にしてはどうか、と思います。

記念講堂の両サイドは、会議室機能を持たせた設計になっていますので、もっと、手を入れて、市民が親しみやすい、近寄りやすい機能を持った講堂、日常的にもっと、もっと活用される講堂に、ドン、ドン、変わって行ったら良いと思います。

勿論、医学部、看護学部、薬学部がキャンパスにありますので、それぞれの入学式や卒業式などのセレモニーを行う。それに、日常的に生かされる利用機能を講堂にプラスして、千葉市のシンボルの一つにもなるように活用されると、より良いと思います。

鈴木： 先日、榎文彦先生が日本で最初に設計された名古屋大学・豊田講堂（以下、豊田講堂）を取材しました。榎先生が設計したふたつの講堂以外の建物を紹介してください。

栗生： 大学の施設としては、国内各地に多数、海外も含めて大小様々な建物を設計しています。アメリカから帰国して最初の設計が豊田講堂です。記念講堂と同じように竹中工務店・設計部との共同設計です。丁度、50年経過し2年前に改修しました。コンクリート部の汚れや傷みの補修、独立した建物の講堂と会議棟の間にあった中庭をひとつの建物内に納めてアトリウム空間にするといった増築をしています。

設備面では、音響、空調、座席幅を広くするなどの改修をしています。外観、機能は、見違えるようになり、様々な使われ方に対応して、市民へも開放しています。記念講堂も、同じような考えで再生すると望ましいと思います。

鈴木： 榎先生が設計した建物で、「ガイドブック」に掲載されている建物はありますか。

栗生： 皆さんご存知の「幕張メッセ（日本コンベンションセンター）」があります。完成は昭和64（1989）年ですが、その後の増築計画も行っています。

鈴木： 亥鼻キャンパス・医学部本館でのインタビュー、有難う御座いました。先生の専門的な立場からの解説と提言は、動画をご覧ください。



記念講堂 （撮影：平成22年1月24日）



講堂で行われた初めての卒業式

< 概要 >

- ・設計：榎文彦 竹中工務店・設計部
- ・協力：流 政之（ながれ・まさゆき）

彫刻 「三恋シリーズ」 前庭・悲恋 舞台後壁・得恋 講堂南・不詳

- ・ 施 行：竹中工務店
- ・ 構 造：鉄筋コンクリート造 地下1階 地上3階
延面積 2,372,071 m²
- ・ 座 席 数：960席：1階720席 2階240席
- ・ 工事期間：着工1962年12月 完成 1963年11月



シンボル 入口・鑰（どら）

.....

鈴木： 今日、お忙しいところ有難うございました。「オンライン会報」の動画は、
みのはな同窓会員が自由に閲覧できます。デザイン工学を専門とする建築家に登
場いただいたのは、先生が最初です。病院や医院の設計者を求めている会員がお
られるかと思しますので、栗生明設計事務所を紹介して下さい。

栗生： 病院の計画まではやりましたが、最後まで携わった経験はありません。美術館
や博物館の類が多くあります。平等院鳳翔館、国立長崎原爆死没者追悼平和祈
念館、植村直己冒険館などです。 1

鈴木： 栗生総合計画事務所は、東京にあるんですか。

栗生： 神田明神の並びの「ライオンズプラザお茶の水ビル」にあります。 2

鈴木： 先生の解説で、記念講堂に込められた設計者の想いが分かりました。また、親
しみのある記念講堂に再生するためのご提言を頂き、有難うございました。

1 主な作品

- ・ カーニバルショーケース：1989年第1回日本建築家協会新人賞
- ・ 植村直己冒険館：1996年日本建築学会賞、公共建築百選
- ・ 桐蔭学園メモリアルアカデミウム：神奈川県建築コンクール奨励賞
- ・ 平等院宝物館・鳳翔館：2003年日本芸術院賞、2002年BCS賞、2001年度グッドデ
ザイン賞、日本建築学会賞作品選奨、
- ・ 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館：2006年第19回村野藤吾賞、2005年BCS賞、
2004年度グッドデザイン賞、日本建築学会
賞作品選奨
- ・ 浜名湖花博各種施設：グッドデザイン賞 他

2 (株)栗生総合計画事務所

〒113-9934

東京都文京区湯島 1-2-12-202

電話 & Fax：03-3256-8891

.....

竣工直後の記念講堂



「得恋」と名付けられた舞台後壁彫刻：デザイン・流 政之

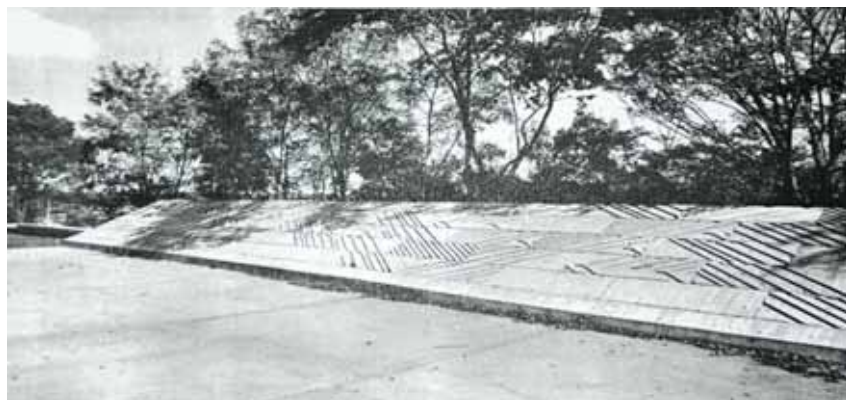


扉を全開にしてホワイエと一体化

(ホワイエ：エントランスから続くホールまでの広い空間)



空間でつながる客席とホワイエ



「得恋」と対比する東側前庭の彫刻「悲恋」



名称不明の南側彫刻（現時点）